2024 年度（2025 年 3 月期）決算説明会
主な質疑・応答

2024 年度（2025 年 3 月期）決算説明会
2025 年 5 月 8 日（木）13：00-14：00 WEB 開催（ＳＭＢＣ日興証券 新丸の内ビルディング）
出席者：21 名

主な質疑・応答

回答者：
代表取締役社長執行役員　福井 正一

１）昆布・豆の食品市場について、国内市場は低減傾向にあるのでしょうか？詳しく教えてください。一人あたりの消費量は、どうでしょうか？昆布の消費が期待できる海外市場はあるのでしょうか？

昆布と豆の国内市場について、低減傾向にあるのは間違いございません。しかし、まだまだ国内市場には売上拡大のチャンスはあると考えております。当社の昆布製品であるカップ佃煮「ふじっ子煮」と塩こんぶ「ふじっ子」は品質ではどこにも負けないという自信がございます。現状、昆布製品の首都圏や近畿圏でのシェアはかなり保っておりますが、継続して全国でのプロモーションを実施し、地方でのシェア拡大を狙っていきます。豆製品につきましても、「おまめさん」シリーズはブランドとして知名度は高いと考えています。特にお正月の黒豆製品の売上は圧倒的であります。現在、黒豆製品を平常月にも拡販していく取り組みを進めており、売上拡大にチャレンジしていきます。海外市場につきましては、昆布は嗜好性の高い食品ですので難しいと考えます。ただし、昆布は出汁や調味料として海外でも需要があるものと考えております。そのため、海外においては飲食店等の外食産業向けに、業務用商品「昆布ミネラル」という昆布抽出エキスをしっかり拡販していくことで売上拡大を図ります。

２）昆布の生産減によって、事業への影響はどの程度見込まれているでしょうか？

昆布の生産が減少すると、事業へ多大なる影響が見込まれます。当社では昆布資源の保全のため、北海道大学と共同研究を行っており、高水温耐性のある昆布の育種開発や養殖方法の改善に取り組んでおります。昆布事業は、当社にとって一番の利益の根源であるので、昆布原料の保全は重要課題と認識して取り組んでまいります。

３）2026 年 3 月期の計画について、2025 年 3 月、6 月の値上げによる物量減（販売減）の影響はどのように考えていますか？

2026 年 3 月期は、円安の影響及び諸資材の値上がりを 2025 年 3 月・6 月に予定している製品値上げで吸収する計画を立てておりますが、これには値上げによる物量減の影響を織り込んでおります。

以上